

第110回 病態生化学セミナー

日時：平成29年2月24日（金曜日）午後6時00分～

場所：医学部 基礎研究棟6階 セミナー室 変更になりました。

演題：皮膚科の自己炎症性疾患：DITRA と CAMPS

Autoinflammatory diseases in dermatology: DITRA and CAMPS

演者：杉浦 一充 先生

藤田保健衛生大学医学部皮膚科 教授

自己炎症性疾患とは自然免疫にかかわる1つの遺伝子の変異を病因とする、全身性炎症疾患であり、現在18の疾患が含まれる。自己炎症性疾患の大部分の症例は乳幼児、小児期に発症する。近年、自己炎症性疾患は拡大してきていて、従来の膿疱症、炎症性角化症に分類されていた疾患の一部も自己炎症性疾患であることが分かってきた。IL-36Ra 欠損症 (deficiency of interleukin-thirty six receptor antagonist; DITRA) と CARD14 mediated psoriasis (CAPMS)がその様な皮膚科が主体の自己炎症性疾患に該当する。DITRAとはインターロイキン36受容体拮抗分子 (interleukin-36 receptor antagonist; IL-36Ra) の遺伝子である *IL36RN* 遺伝子の機能欠損を背景として引き起こされる疾患である。DITRA の臨床型の最も典型的なものは膿疱性乾癬(汎発型)(GPP) である。通常の自己炎症疾患と異なり、成人発症例も多数例いる。CAPMS は、Caspase recruitment domain family, member 14 (CARD14) の遺伝子である *CARD14* 遺伝子の常染色体優性変異により家族性に幼少時に尋常性乾癬または、関節症性乾癬または、GPP または、毛孔性紅色秕糠疹を発症する疾患である。DITRA は2011年、CAPMS は2012年の報告が始まりで、どちらも歴史の浅い疾患概念であり、遺伝学的研究が先行している。本セミナーでは私たちの今までの遺伝学的研究の成果を中心に、DITRA と CAPMS の最新知見を紹介する。

【杉浦 一充】

連絡先：

浦野 健

島根大学 医学部 病態生化学

TEL 0853-20-2126

E-mail turano@med.shimane-u.ac.jp